

国際シンポジウム等開催状況

開催日	名称	内容	開催地
平成16年6月10日、11日	東北大学ケンブリッジフォーラム	東北大学と英国をはじめとする欧州の学術研究機関との幅広い学術交流の促進を目的に、2回目の海外フォーラムとして、東北大学ケンブリッジフォーラムを開催した。	ケンブリッジ市(イギリス)
平成16年10月22日、23日	魯迅先生東北大学留学100周年記念事業	中国の文豪魯迅が東北大学医学部の前身である仙台医学専門学校への留学100周年を迎えることを記念して、東北大学が交流協定を締結している中国の主要6大学の学長、副学長を招聘し、一連の行事を開催した。記念式典をはじめ、仙台財界人とのパネルディスカッション形式の公開シンポジウムや東北大学との今後の学術交流について協議する学術セミナー及び東北大学史料館において魯迅に関する特別展を実施した。	宮城県仙台市
平成17年9月27日、28日	国際シンポジウム —魯迅の起点:仙台の記憶—	経済学研究科の教員・学生を中心とする魯迅・東北大学留学百周年史編集委員会が東北大学出版会より出版した「魯迅と仙台:東北大学留学百周年」の中国語版の発行を記念し、学際的観点から魯迅留学の意義を検討し、魯迅研究の更なる発展への寄与に関心を寄せる研究者、政府関係者、市民が集い、意見交換を行うことを目的とし、魯迅北京博物館との共催、在中国日本大使館の後援により開催した。	北京(中国)
平成19年2月8日、9日	日仏ジョイントフォーラム "Lyon - Tohoku, Teaming for the Future" 2020年の科学・技術の姿	東北大学創立100周年と東北大学の大学間交流協定校であり、ダブルディグリープログラムの協定を締結している国立中央理工学校リヨン校(ECL)の150周年、国立応用科学院リヨン校(INSA-Lyon)の創立50周年を記念した事業で、フランス各地から高等教育・研究機関、政財界、商工会議所、日仏の研究者、仙台市などの自治体、企業関係者ら延べ300人以上が参加し、運輸、材料、エネルギーをテーマに10年後の科学技術の姿を論じ合った。	リヨン(フランス)



国際シンポジウム—魯迅の起点:仙台の記憶—



日仏ジョイントフォーラム



日仏ジョイントフォーラム

国際交流戦略の基本指針

2005年3月8日 東北大学

東北大学は、真理を探究して、新たな知識の創造とその普及に努め、それによって、人類が尊厳を保ちながら平和のうちに共生する社会の実現に貢献することを使命にしている。より具体的には、本学は、多様な分野の学術が集い相互に協力・刺激し合いながら研鑽を積む総合大学として、世界と歴史の知の成果に学び、現在と未来の学問的課題を見極め、新たな知識の発見・創出と社会における公開・応用に取り組むと共に、知を以て人類社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成することを目指すものである。

本学は、既にこれまで1世紀の間、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を精神的支柱として掲げてきた。このことは、本学構成員が、開学以来一貫して、研究・教育の国際化が本学の使命・目標を達成するための不可欠の条件をなすと明確に意識してきたことを示している。

近年に目を向けると、本学は、2000年8月に国際交流を通じて世界最高水準の研究・教育拠点作りを目指すことを世界に向けて宣言した。また、2004年4月の法人化に当たり、本学は、「国際競争力のある研究・教育拠点」として発展することを主要目標に挙げた。さらに2004年11月には、本学が今後、「Tohoku University, Creating Global Excellence」(「東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します」)を標榜することを表明した。

このような宣言・表明からも明らかのように、今日、国際交流の推進は、本学の使命・目標の達成にとってますます重要な位置を占めるものとなっている。また、それ故に、今後の国際交流の立案・実施に当たっては、それを本学の使命・目標の実現に可能な限り役立てるといった戦略性が強く求められるに至っている。

したがって、本学は、今後、以下の主要目的を最大限に果たすことを基本指針にして国際交流戦略を立案・実行していかなければならない。

- (1) 国際学術ネットワークを通じた世界最高水準の研究を推進する。
- (2) 広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れて世界の発展に役立つ指導的人材を育成する。
- (3) 研究教育を国際社会に発信するとともに、国際貢献に活用する。
- (4) 上記を達成するために研究・教育基盤を強化し、本学の国際的知名度・信頼性を向上させる。